エネルギーをめぐる動向と当社(INPEX)の戦略

2026年7月2日

株式会社INPEX 代表取締役社長　上田 隆之

地球の力で未来へ挑む

INPEX

株式会社INPEX概要

概要	日本最大規模のエネルギー開発企業
事業分野	石油・天然ガス、低炭素ソリューション（Carbon Capture Storage・水素等）、電力及び周辺分野
設立	2006年（帝国石油-1941年と国際石油開発-1966年が合併）
従業員数 (25年12月)	3,720名（連結） (外国人従業員比率4割強)
生産量 (25年12月期)	63.8万バレル/日 （日本のエネルギー消費量の約1割に相当）
業績 (25年12月期)	売上収益　：2兆　113億円 当期純利益：　3,938億円







（補足）上記の日量生産量は原油・天然ガスを合計したもの。

Copyright © 2026 INPEX CORPORATION. All rights reserved.

主な事業展開エリア

INPEX

欧州



国内



世界約**20カ国**、
約**110**のプロジェクト
（2025年6月末時点）

東南アジア



アブダビ



オーストラリア



Copyright © 2025 INPEX CORPORATION. All rights reserved.

天然ガス/LNGの開発～供給までを一気通貫で実施









総延長約1,500kmをパイプライン
を通じてお客様の元へ

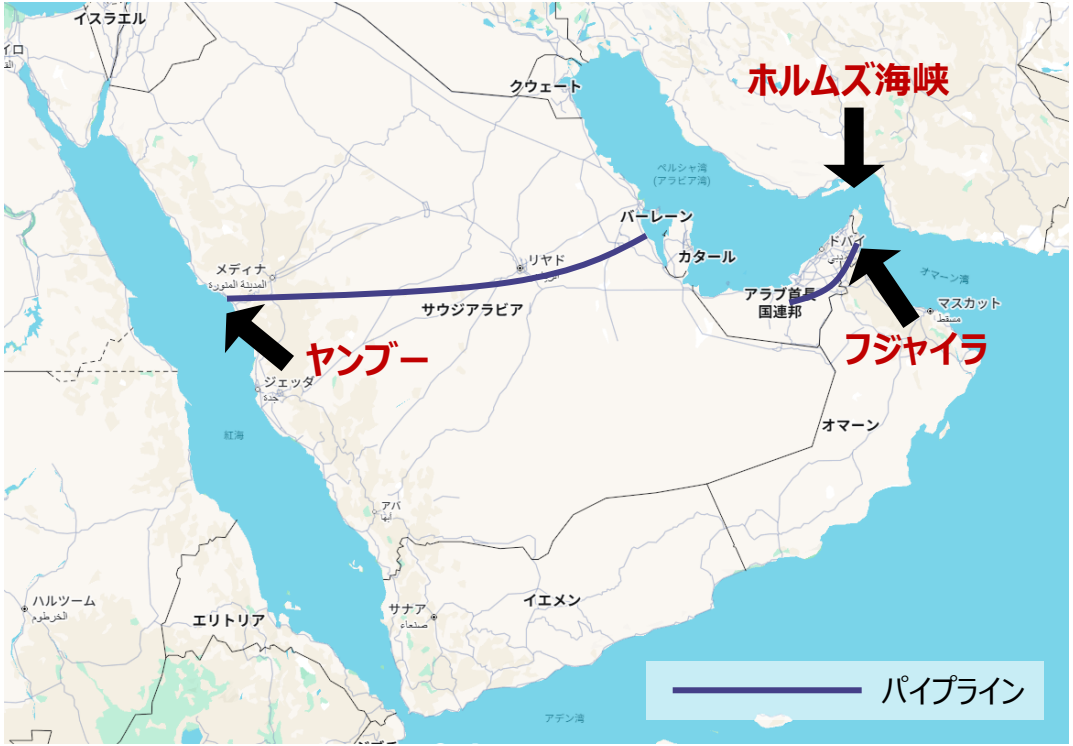
Copyright © 2026 INPEX CORPORATION. All rights reserved.

エネルギーをめぐる動向

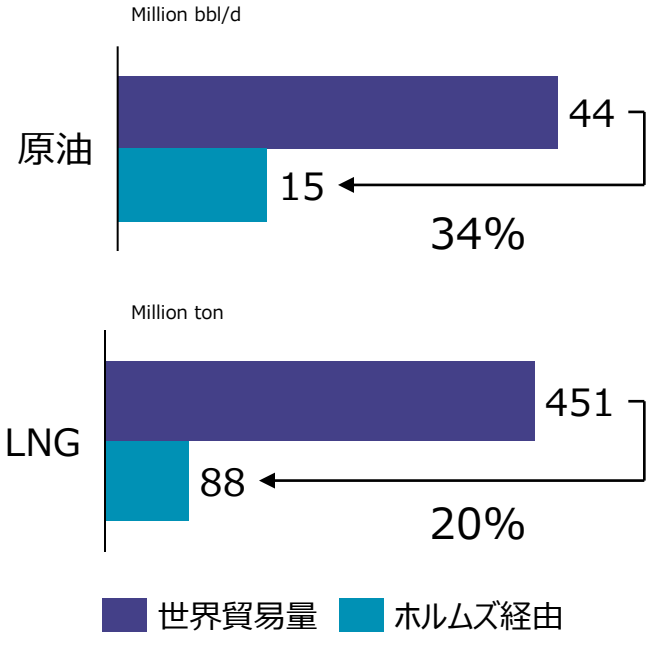
Copyright © 2026 INPEX CORPORATION. All rights reserved.

イラン戦争ーホルムズ海峡閉鎖

- リスクは既知だが誰もが起こらないと思っていた
- 原油貿易の約3割、LNG貿易の約2割を喪失
- 代替ルート：原油は一定程度存在（フジャイラ・ヤンブー）、LNGは存在しない



Google Mapを加工して作成

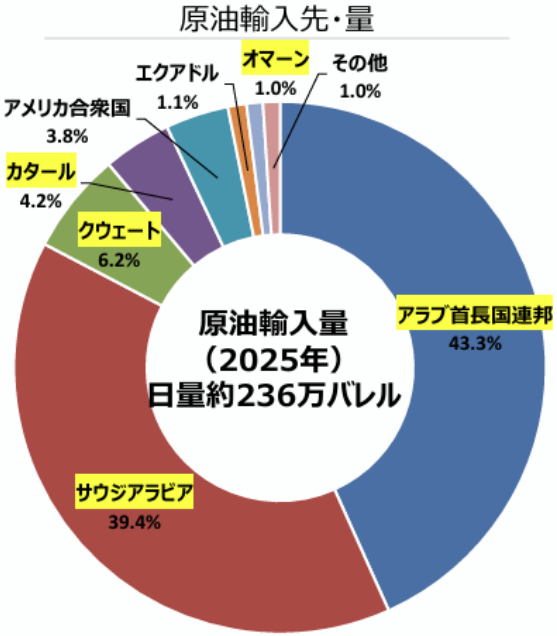


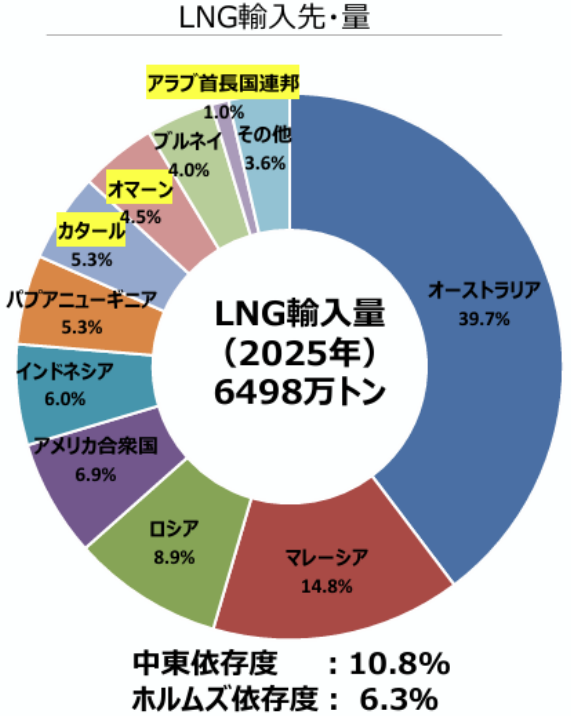
IEA、S&Pより、INPEX作成

Copyright © 2026 INPEX CORPORATION. All rights reserved.

日本の中東依存度・ホルムズ依存度

- 日本のホルムズ依存度：原油 93%、LNG 6%
- 原油に比べると、LNGのホルムズ依存度は低い





2026年５月14日資源・燃料分科会 資源開発・燃料供給小委員会資料より抜粋

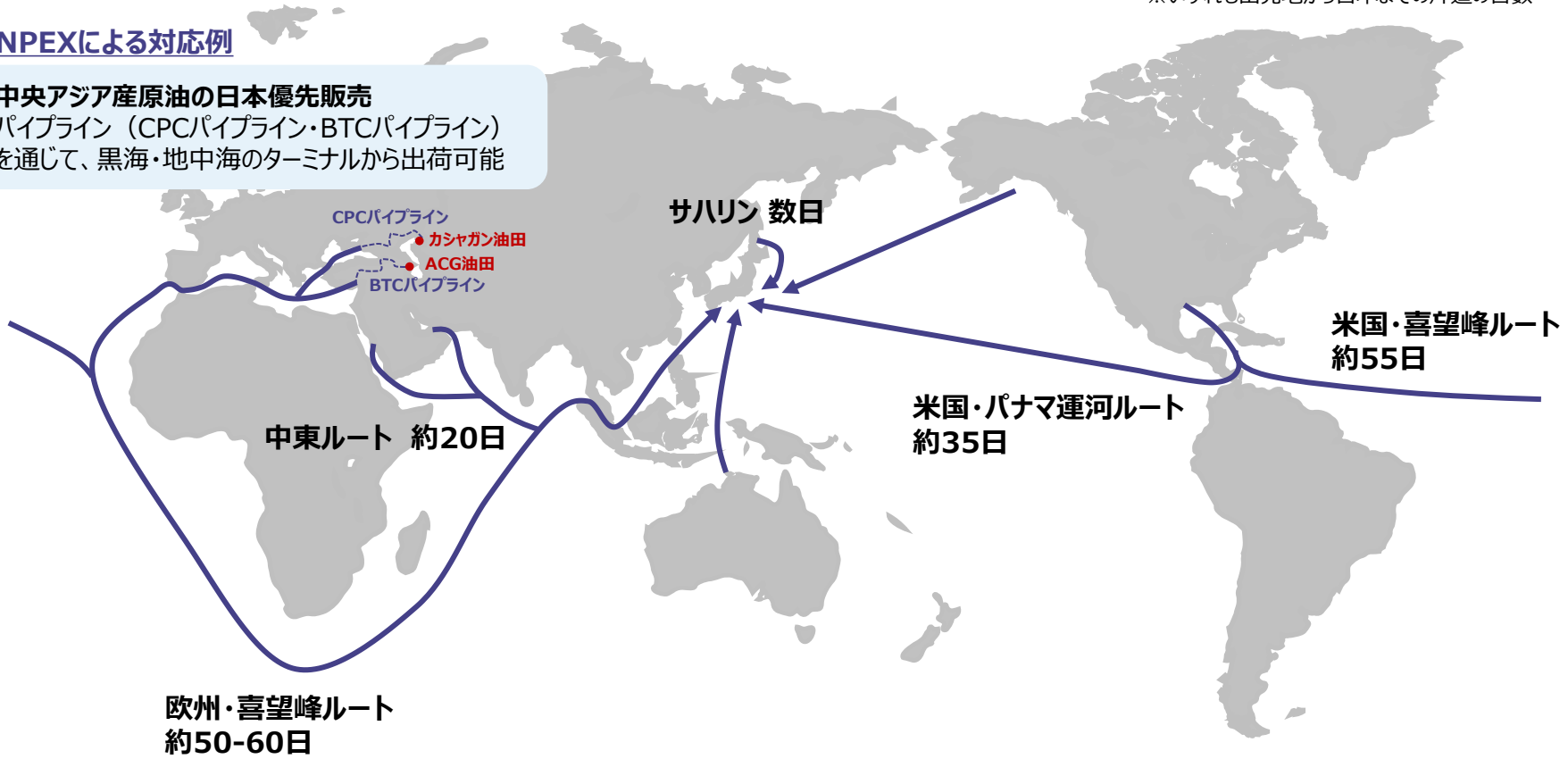
Copyright © 2026 INPEX CORPORATION. All rights reserved.

原油代替調達と輸送日数

※いずれも出発地から日本までの片道の日数

INPEXによる対応例

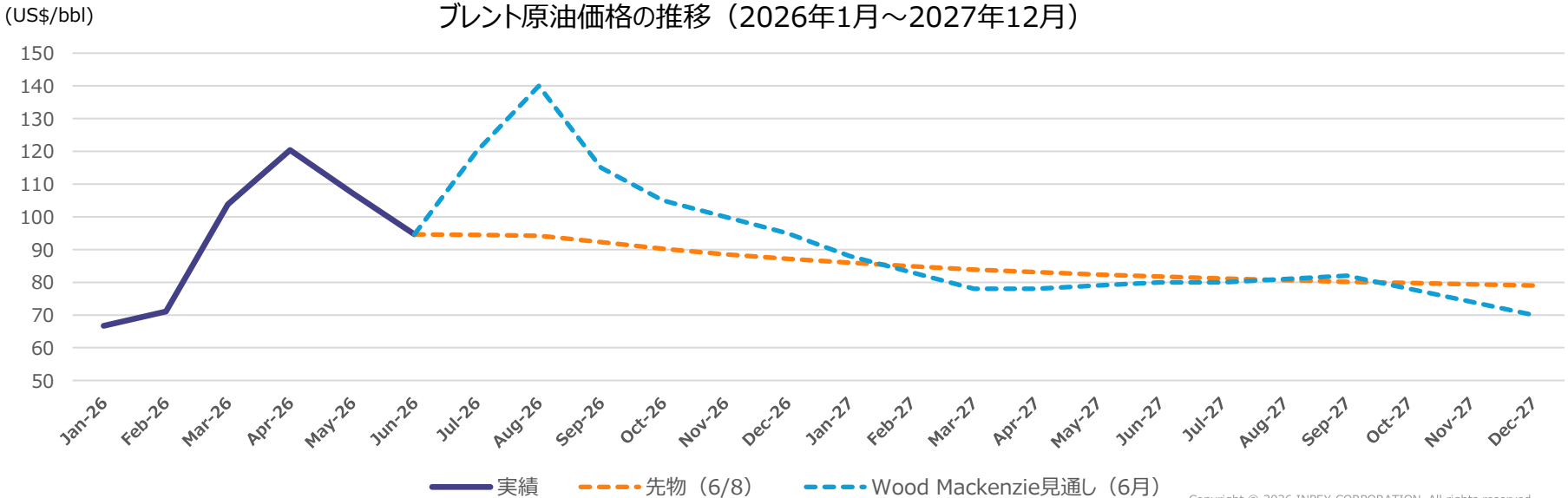
中央アジア産原油の日本優先販売
パイプライン（CPCパイプライン・BTCパイプライン）
を通じて、黒海・地中海のターミナルから出荷可能



参照：日本経済新聞「中東原油、危険避け日本に」2026年5月17日

危機の長期化による影響

- 長期化するほど世界経済への悪影響は増大
- 代替調達と備蓄の取り崩しは短期的措置。長期的には失われた原油を中東以外の国が増産する必要あり→当面の需給バランス緩和にはホルムズ海峡の正常化が不可欠
- 年内ー世界在庫が減少しつつあり、需要期の夏以降にむけて、原油価格について意見の違いあり（「エネルギー専門家」vs「先物価格」）
- 正常化に要する時間は未知数、しかし、中東の地政学リスクは継続か（UAE vs サウジ）



Copyright © 2026 INPEX CORPORATION. All rights reserved.

エネルギーをめぐるモメンタムは大きく変化しつつある

- 気候変動重視からウクライナ戦争を通じてセキュリティ重視の流れに
- AI等による膨大な電力需要の増大への対応が緊急の課題に
- イラン戦争によりエネルギーセキュリティは国家安全保障に格上げの動き

	2020～	2022～	2024～	2026～
	Energy Transition	Address Trilemma	Energy Addition	Energy Security + Resilience
背景	• **脱炭素モメンタム** • AI革命前/COVID経済 • エネルギー断絶意識低	• **ロシア産ガス供給減** • 脱炭素の高コスト認識 • COVIDからの経済回復	• **エネルギー需要増再認識** • 電力需要増（AI革命→DC電力含む） • インフレによるコスト増 • ロシア産ガスの供給減 • 北米・カタールLNGの拡大	• **ホルムズ封鎖** • インフレによるコスト増 • AI革命→DC電力需要 • ロシア産ガスの供給減 • 北米LNGの拡大
潮流	**Sustainability重視** • 再エネ含むクリーンエネルギーへの急速な転換 • 化石燃料の座礁資産化への懸念	**バランスの再評価** • 安価な供給とセキュリティの重要性を再認識 • 脱炭素・再エネ事業のタイムテーブルの見直し	**エネルギーの量的確保** • エネルギー消費の増加に対応する必要性 • 再エネだけでは対応しきれず、当面は化石燃料が必要とのコンセンサス	**エネルギー安全保障** • まずは、経済の基盤であるエネルギーを確保 • エネルギー安全保障の観点から、再エネ・電化促進 + 石炭延命の機運

Copyright © 2025 INPEX CORPORATION. All rights reserved.

今回の中東危機が世界のエネルギー政策に与える影響 ①

効率性重視のエネルギーシステムからセキュリティ・レジリアンス重視のエネルギーシステムに転換する可能性

➢ ただし、既存システムからの転換は簡単ではなく、「のど元過ぎれば元に戻る」可能性も

1. 調達先多様化に向けた動き：中東以外の国への調達先の多様化

- 米国、カナダ、南米、アフリカ…
- しかし、中東原油のシステムの効率性は高い（埋蔵量、生産システム、船）

2. 石油からalternative energyへのシフトの加速化

車　：ガソリン⇒EV、水素
船　：重油⇒LNG、メタノール、アンモニア
電力：火力発電⇒原子力、再エネ

クリーンエネルギーはセキュリティの観点からも正当化される

Copyright © 2025 INPEX CORPORATION. All rights reserved.

今回の中東危機が世界のエネルギー政策に与える影響 ②

エネルギーシステムの転換にあたって考慮されるべき点

1. セキュリティはただではなく、エネルギーシステムの転換には大きなコストがかかる

- 再エネ：太陽光、風力等の大量導入には電力グリッドの強靭化が不可欠
- 水素、アンモニア：天然ガスの4～10倍のコスト
- 原子力：再稼働・新設のコスト、新技術はかなり先

2. 誰がセキュリティ転換のコストを負担するかについて、コンセンサスなし

- 「クリーンでセキュリティの高いエネルギーは欲しい」、「でも今と同じ値段で」

3. 加えて膨大な電力需要の増大に対応する必要がある

- AI、データセンターなどにより、電力需要は2035年頃までに今の数倍から10倍程度必要（本当か？）
- もしそうであるならば、全てのエネルギー源を投入する必要あり

Copyright © 2025 INPEX CORPORATION. All rights reserved.

そもそも現在は世界の基本的なシステムの転換点かもしれない ①

■ 世界の基本的なシステムは機能不全を起こしている

- 国連による安全保障体制：安全保障理事会は機能せず
- 自由貿易は昭和の思想：トランプ関税、WTOは機能せず
- 一国主義の横行：America first, Japanese first,外国人排斥…
- 民主主義や自由・平等は普遍的な価値か：独裁政権の隆盛、監視社会

■ AI、人工知能は社会、経済、政治、戦争の在り方、企業運営、人間の生き方まですべて変えていく

- 誰もが将来がわからない時代
- 未来は今よりもよくなるとの確信がない時代

Copyright © 2025 INPEX CORPORATION. All rights reserved.

そもそも現在は世界の基本的なシステムの転換点かもしれない ②

■ 地政学的なリスクは今後とも続く：ニューノーマルは戦争と紛争の時代か

- ウクライナ戦争
- 中東の緊張は続く
- 米中対立

■ 新しい秩序の萌芽：これは正しい方向か

- 自由貿易：like-minded countriesの同盟、ブロック化する経済
- 国連による安全保障体制：大国による力の支配と大国間の取引による世界秩序の維持（米中による世界秩序の維持）
- AIがリードする社会、政治、経済、戦争（人間はAIの下僕か、監視役か）

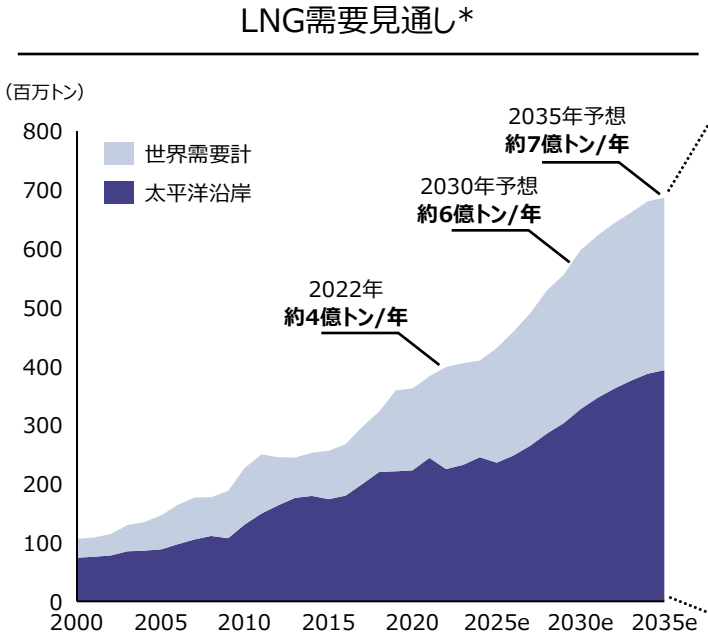
Copyright © 2025 INPEX CORPORATION. All rights reserved.

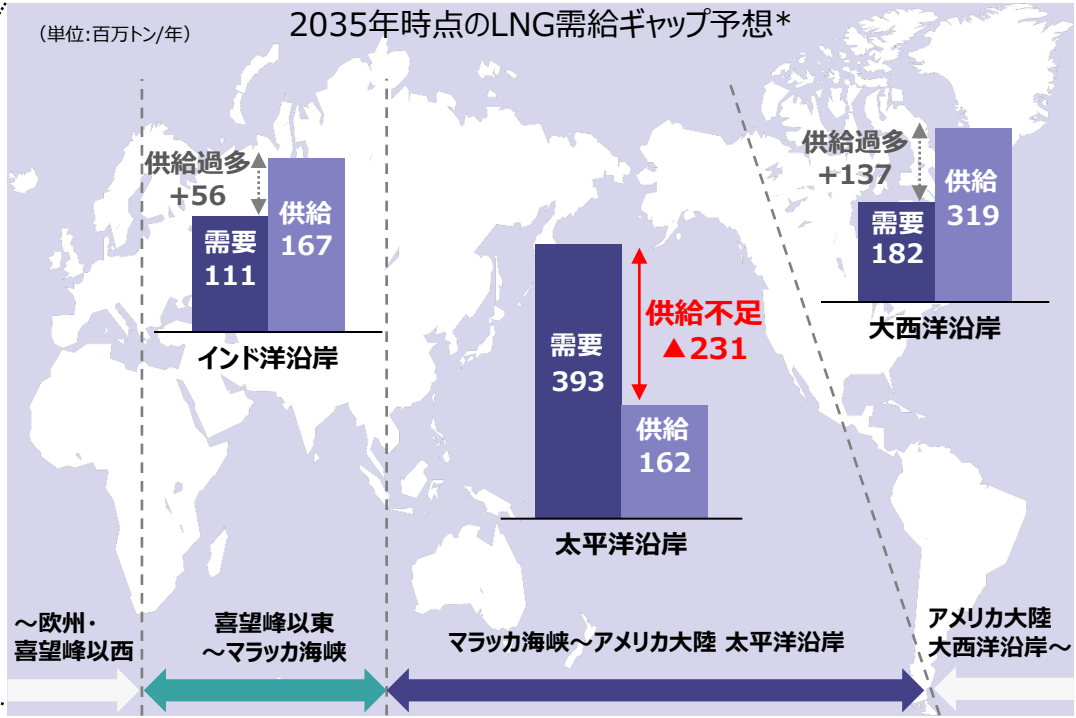
INPEXの戦略

Copyright © 2026 INPEX CORPORATION. All rights reserved.

増えるアジア圏のLNG需要に対して、イクシス・アバディを核として貢献

2035年のグローバルでのLNG需要は、足元の約4億トンから**約7億トンへ増加**見込み。
需要の中心は**アジア・オセアニア地域で、約6割**を占める。**アジアを含む太平洋沿岸地域では供給不足**となる見込み。





出典： Wood Mackenzie（2025Q4データ）より当社作成

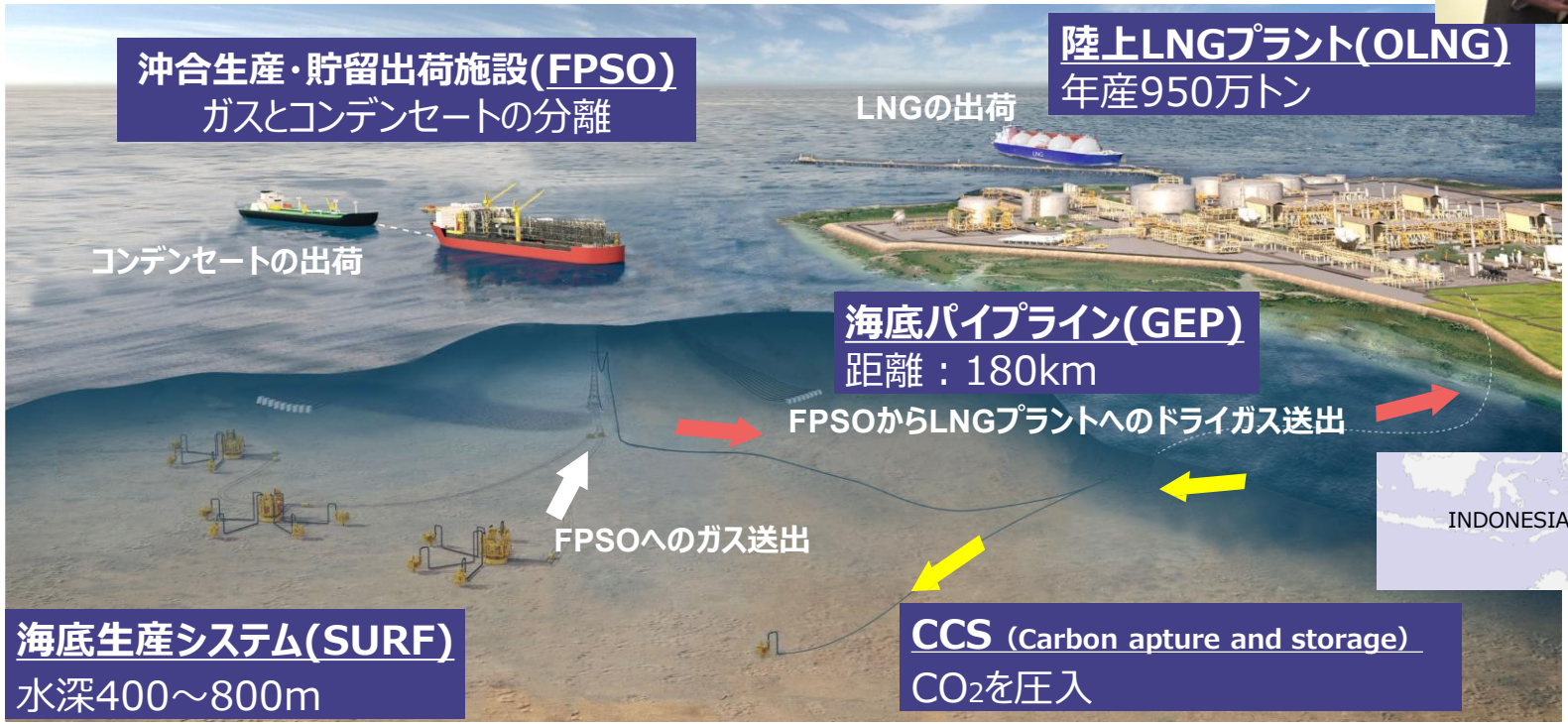
Copyright © 2026 INPEX CORPORATION. All rights reserved.

アバディLNGプロジェクト（インドネシア）

LNG生産量はイクシスと同程度の**年産950万トン**
2030年代初頭の生産開始を目指す



インドネシア共和国
バフリル エネルギー鉱物資源大臣との会談





Copyright © 2026 INPEX CORPORATION. All rights reserved.

エネルギーの低炭素化へ：水素・アンモニア事業

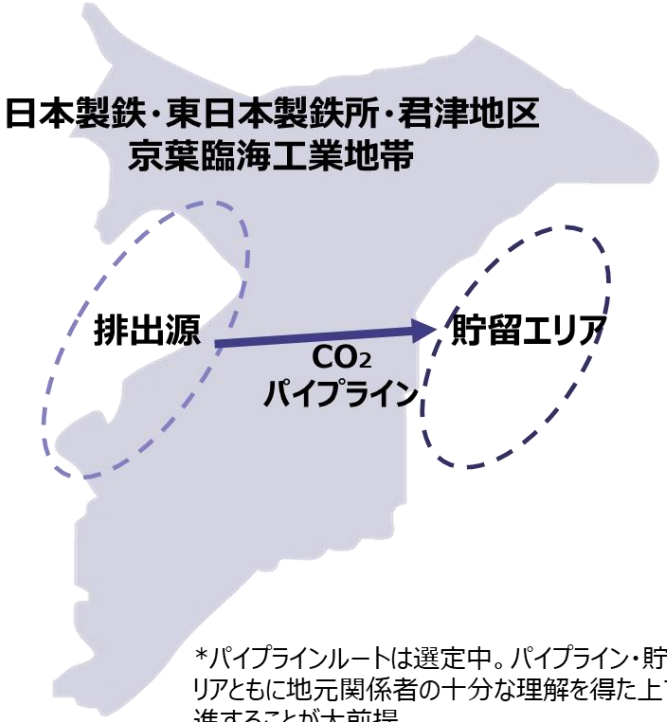
日本初の国産天然ガスを用いたブルー水素・アンモニア製造CCUSの実施



柏崎水素パーク（ブルー水素・アンモニア製造一貫実証試験）
（新潟県柏崎市）

エネルギーの低炭素化へ：首都圏CCS事業

大都市圏の千葉・京葉臨海コンビナートから複数産業を排出源とするCO₂を回収
パイプライン*で輸送の上、外房沖海域に貯留するCCS事業



*パイプラインルートは選定中。パイプライン・貯留エリアともに地元関係者の十分な理解を得た上で推進することが大前提。

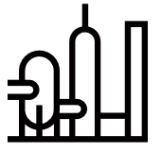
NIPPON STEEL

分離回収

製鉄所　発電所等



CO_2分離回収設備



INPEX 関東天然瓦斯開発株式会社 Kanto Natural Gas Development Co., Ltd.

輸送

陸上パイプライン



・輸送能力　：最大5百万トン/年
・敷設長(幹線)　：約80km
(拡張時は更に支線を延長する予定)

INPEX 関東天然瓦斯開発株式会社 Kanto Natural Gas Development Co., Ltd.

貯留

昇圧設備



CO_2圧入井



出典：令和6年度先進的CCS事業成果報告会(2025年7月9日開催) URL:https://www.jogmec.go.jp/news/event/event_k_10_00225.html

Copyright © 2026 INPEX CORPORATION. All rights reserved.

目の前に立ちはだかる世界規模の課題。
私たちは地球の力でエネルギーを創る、
チームの力を結集する、経験と新しい発想で知恵を出し合う。
絶対に使命を投げ出したりしない。
私たちはエネルギーを探し、届け続ける。
今日も明日もこれからも、ずっと。

地球の力で未来へ挑む

INPEX

Energy for a brighter future